

令和4(2022)年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 活動中間報告

団体名

特定非営利活動法人 水梨かふえ

活動のテーマ

廃校校舎を活用した地域コミュニティ×障がい児福祉の拠点づくり

9月までに達成できた事項(箇条書き)

地域コミュニティ
【陽だまりかふえ】(高齢者サロン)
月2回のペースで、交流会、学習会、親睦会の実施 参加者約20人 7月からは月1回開催。
【水梨キッズかふえ】(地域全体で取り組む、子どもの居場所作り)
6月のみの開催。参加者約100人。紙飛行機作り、体育館での遊具遊び等。
【校舎活用】
新型コロナウイルスワクチンの接種会場として施設を提供。障がい児を含む子どもが接種。
障がい児福祉の拠点づくり(多機能型事業所 ippobの活動)
・地域の方々と一緒に野菜づくり(じゃがいも、ミニトマト、サヤエンドウ、さつまいも等)
・花を育てる活動(校舎の花壇や地域に配布、バス停美化活動にも活用)
・ゴミ拾いやバス停美化活動(週に2回程度のペースで実施)
・ボランティアによる活動(ippob夏まつり、焼きマッシュマロ等)
・ビーズアクセサリー等の制作(バザー等で販売、収益は工賃として支払い)

今後の活動予定と令和5年3月末時点の達成予定事項

地域コミュニティ
【陽だまりかふえ】(高齢者サロン)
月2回ずつ定期的に開催。今は講師を呼べないが、各種分野の講師による学習会等の実施。
【水梨キッズかふえ】(子どもの居場所作り・子ども食堂)
新型コロナの流行が収まったら、毎月1回、旧水梨小学校を会場に開催。
子ども食堂を開催し、高齢者サロンの方々が作る「はっと汁」やippobの利用者が育てた野菜で作った、「豚汁」等の提供。地域ボランティアによる活動の充実。
障がい児福祉の拠点づくり
・地域貢献活動の継続…ゴミ拾い、バス停美化活動 等
・各種交流会の実施…ハロウィンの地域巡り、焼きいも会、クリスマス会、卒業を祝う会 等
・ボランティアの方々による活動…サンタクロースのプレゼント、お正月飾り作り 等
・障がい児者の啓発活動(ippobや地域での活動の紹介の機会を得て)
・生活介護利用者が作製した物品の販売

NPO法人 水梨かふえ

宮城県気仙沼市

廃校校舎を活用した地域コミュニティ×障がい児福祉の拠点づくり



宮城県気仙沼市 旧水梨小学校

気仙沼市水梨地区について

気仙沼市は、宮城県の県庁所在地である仙台市から最も離れたところに位置する市です。その気仙沼市の中でも南西のはずれにあるのが水梨地区です。水産業が盛んな気仙沼市にあっても、海に面していない、山間の地域です。

満開時には全山がツツジで真っ赤になる徳仙丈山や、小学校入学前の子どもが山登りをする御山がけ神社のある羽田神社などが水梨地区にはあり、自然と伝統を大事に守り続けてきた人たちが暮らしています。

水梨地区の人口は約1,100人、世帯数は約400世帯です。人口の大半を高齢の方々に占めている、過疎化が課題になっている地域です。

水梨キッズかふえと陽だまりかふえ

そんな静かな山村に激震が走ったのは5年前でした。気仙沼市教

育委員会が水梨小学校の廃校という方針を発表したのです。地元とすれば、小学校がなくなるということは受け入れがたいことでしたが「地域に子どもたちの笑顔を増やそう」ということを考えました。

みんなで考えたのは、「水梨キッズかふえ」というイベントです。水梨コミュニティセンターを会場に、子どもの遊び場や様々な体験会にバザー、最後は昼食をみんなで食べて解散、ということを考えました。これは、地域の総意として、地域みんなで取り組むことにしましたが、中心となったのは、水梨地区PTAの方々でした。

最も手間がかかると思われる、昼食は、「陽だまりかふえ」の方々が担当してくれました。陽だまりかふえは、月に2回程度集まって、お茶を飲みながら、カラオケをしたり、踊りを踊って楽しむ会です。時には、警察の方をお招きして、防犯についての学習会も実施しますが、主に高齢者と言われる方々ですが、自慢の野菜を持ち寄って、



陽だまりかふえ 踊り鑑賞

「はっと汁」などの昼食(子ども食堂)を提供しました。これが大好評で、陽だまりかふえの時には、みんなで次の会のメニューを考えるのも楽しみの一つになりました。

子どもから高齢の方々まで一緒に楽しめるイベントを開催する一方で、中心になって進めていた、水梨かふえの現理事長を中心に、障害のある子どもたちの通所施設「いっぽ」を開設しました。月1回開催される水梨かふえには障害のある子どもたちも参加するようになりました。

地域の方々からは、温かく向かい入れていただきました。このときの地域の皆さんの優しさがその後子どもたちの気持ちの成長に良い影響を与えています。



多機能型事業所 いっぱ

障がいのある子を抱えて苦戦している母親の力になりたいと考え、NPO法人水梨かふえを立ち上げ、施設を開設したのは、2018年12月でした。最初は理事長の自宅の納屋を改造した施設でした。

やがて、通所する人数が増えてきて、今は、旧水梨小学校の校舎を活動の場としています。校舎の借用を申し出ましたが、実現は困難な状況でした。でも、地域の総意ということで、市に要望書を自治会長さんの連名で提出していただき、地域の活動の拠点にもなることが可能ということで、正式に借用することができました。

ところが、学校の校舎を福祉施設として使うには、防火基準等が大きく違うので、改修に膨大な費用がかかってしまいました。

それでも、広い校舎で、現在は様々な障害に対応した事業を展開しています。

9月までの活動の進捗状況

【陽だまりかふえ】

6月までは、毎月第2・第4火曜日の月2回のペースで開催し、毎回20人前後の参加があり、親睦会の他に、歌を踊ったり体操をし

たりしています。7月以降は新型コロナの影響で月1回、第2火曜日だけの開催となっていますが、地域の高齢の方々の交流の場として定着しています。

【水梨キッズかふえ】

6月26日（日）に今年1回目の活動ができました。内容は、紙飛行機作り、野菜販売、ドラムセット体験等。子ども食堂は、新型コロナの影響でお菓子プレゼントに変更しました。当日は好天に恵まれ、準備したお菓子はあっという間に完売し、追加のお菓子を買ってくるほどの盛況でした。支援していただいた、日よけ用の仮設の屋根オーニングが大活躍しました。

7月24日にも計画し、ポスターも作成しましたが、新型コロナウィルスが流行し、直前になって、中止せざるを得ませんでした。

【多機能型事業所 いっぱ】

野菜づくりは、順調に進み、じゃがいも、ミニトマト、ピーマン、サヤエンドウなどが収穫できました。現在、さつまいもと大根が順調に生育していて、秋の交流会の材料として使う予定です。

花づくりにもみんなで取り組み、校舎前の花壇が賑わっています。訪れた地域の方々からも好評です。

地域の役に立てるとということ

で、施設を新型コロナウィルスワクチンの接種会場（子ども向け）に提供しました。利用人数を上回る子どもたちが接種しました。

自分たちでできる地域貢献ということで、散歩しながら地域のゴミ拾いをしたり、地区内のバス停の待合室の美化活動に取り組んでいます。特に、バス停掃除は、週2回程度のペースで実施しているのですが、花を飾ったりもするので、地域の方々からお褒めのことをいただいています。

キッズかふえが開催できない分、ボランティアの方々がお出でになり、焼きマッシュマロや夏まつりなど、様々な交流会を実施しています。ありがたいです。

今後の活動予定

陽だまりかふえと水梨キッズカフェは本格的な再開を目指しています。

多機能型事業所いっぱいには収穫した野菜を使っのいも煮会や焼きいも大会などで地域の方々との交流会を実施していく予定です。稲刈りの案内も届いています。ハロウィンやクリスマス、お正月などの季節の行事も地域の方々と一緒に楽しむことを計画しています。